

POD 2008年大会報告

SPODフォーラム2009

2009.9.9.10:00～ 宮田政徳・川野卓二・
塩崎俊彦・立川明



1

今日のPOD参加報告の内容

1. PODについて
 - ①目的
 - ②歴史
 - ③組織
2. POD 2008年大会について
 - ①開催都市
 - ②テーマ
 - ③参加者
 - ④日程とプログラム
 - ⑤発表の内訳、数、内容、形式
3. 大会の様子について
 - ①Concurrent Session
 - ②Poster Session
 - ③Plenary Session (川野先生より)
4. その他の英語圏の高等教育学会
5. 大会に参加しての感想 (高知の塩崎、立川先生より)

2

1. PODについて

- POD (=Professional & Organizational Development Network in Higher Education)
- 「高等教育における専門職及び組織開発(北米)ネットワーク」



3

PODとは

- 米国で高等教育機関における教授・学習の向上のために貢献することを目的に、1975年に創設された学会である。教育の専門性向上のためにメンバー間の親睦と学問的交流を提供している**専門職及び組織開発**のネットワークである。
- メンバーは教育開発者 (**educational developer** 又は **faculty developer**) と呼ばれる、教員とも事務職員とも異なる専門職である。彼(彼女)らは教員個人、授業・カリキュラム、組織開発を通して、高等教育機関における人材開発を行うことが業務である。現在約1,800名の会員がいる。

4

PODの目的

- ① 会員に対して、出版・大会・コンサルテーション・ネットワークを通して、サービスと支援を提供すること。
- ② 会員以外にもFD (Faculty Development) に関心のある人にサービスと情報を提供すること。
- ③ 国内高等教育機関のリーダーたちに教員開発 (Professional Development)・教授法開発 (Instructional Development)・組織開発 (Organizational Development)の重要性を唱導する役割を果たすこと。

5

PODの歴史（開催都市）

- 第1回大会(1976): Virginia州Airlie(東部)
- 第2回大会(1977): Illinois州Zion(中部)
- 第3回大会(1978): Oklahoma州Shangri-La(中部)
- 第4回大会(1979): Tennessee州Fairfield Glade(東部)
- 第5回大会(1980): California州Berkeley(西部)
- 第6回大会(1981): Ohio州Cincinnati(東部)
- 第7回大会(1982): Quebec州Montebello(カナダ)
- 第8回大会(1983): Virginia州Airlie(東部)
- 第9回大会(1984): California州Monterey(西部)
- 第10回大会(1985): Wisconsin州Delavan(中部)

6

PODの歴史(開催都市)

- 第11回大会(1986): Pennsylvania州Somerset(東部)
- 第12回大会(1987): Texas州Kerrville(中部)
- 第13回大会(1988): Colorado州Keystone(中部)
- 第14回大会(1989): Georgia州Jekyll Island(東部)
- 第15回大会(1990): California州Tahoe City(西部)
- 第16回大会(1991): West Virginia州Morgantown(東部)
- 第17回大会(1992): Florida州Wesley Chapel(東部)
- 第18回大会(1993): Minnesota州Rochester(中部)
- 第19回大会(1994): Oregon州Portland(西部)
- 第20回大会(1995): Massachusetts州Falmouth(東部)

7

PODの歴史(開催都市)

- 第21回大会(1996): Utah州Salt Lake City(西部)
- 第22回大会(1997): Florida州Haines City(東部)
- 第23回大会(1998): Utah州Salt Lake City(西部)
- 第24回大会(1999): Pennsylvania州Lake Harmony(東部)
- 第25回大会(2000): **British Columbia州Vancouver(カナダ西部)**
- 第26回大会(2001): Missouri州St.Louis(中部)
- 第27回大会(2002): Georgia州Atlanta(東部)
- 第28回大会(2003): Colorado州Denver(西部)
- 第29回大会(2004): **Quebec州Montreal(カナダ東部)**
- 第30回大会(2005): Wisconsin州Milwaukee(中部)

8

PODの歴史（開催都市）

第31回大会(2006): Oregon州Portland(西部)

第32回大会(2007): Pennsylvania州Pittsburgh
(東部)

第33回大会(2008): Nevada州Reno(西部)

第34回大会(2009): Texas州Houston(中部)

開催都市はだいたい順番に米国の
東部 → 中部 → 西部、または
東部 → 西部 → 中部となっている。

9

PODの組織（全体）

- **Core Committee**(理事会): PODの最高決定組織であり、会長、次期会長、前会長以下18名から成る。
- **Executive Committee**(運営委員会): 会長、次期会長、前会長、会計監査委員長、事務部長の5名から成る。理事会で決定されたことを実行して運営して行く組織。
- **Standing Committees**(常設委員会): 各種16の委員会がある。詳しくは次に挙げる。

10

PODの組織（常設委員会）

- ① **Awards Committee:** POD賞認定委員会
- ② **Conference Committee:** 大会開催委員会
- ③ **Diversity Committee:** 多様性委員会？
- ④ **Electronic Resources and Communications Committee:** Webを含めた電子・通信管理委員会
- ⑤ **Finance and Audit Committee:** 会計監査委員会
- ⑥ **Governance Committee:** 組織管理委員会
- ⑦ **Graduate Student Professional Development Committee:** 大学院生開発委員会

11

PODの組織（常設委員会）

- ⑧ **Grant Committee:** POD補助金委員会
- ⑨ **Historian:** POD歴史記録係
- ⑩ **Membership Committee:** 会員登録委員会
- ⑪ **Nominations and Elections Committee:** 選挙委員会
- ⑫ **Outreach Committee:** 対外渉外委員会
- ⑬ **Professional Development Committee:** 職能開発委員会
- ⑭ **Publications Committee:** 出版委員会
- ⑮ **Research Committee:** 研究開発委員会
- ⑯ **Small Colleges Committee:** 小規模カレッジ委員会

12

2. POD Conference 2008について



13

2008年大会の特徴

- POD第33回大会とNCSPOD第31回大会の合同開催であった。
- NCSPODとは、North American Council for Staff, Program and Organizational Developmentの略称で、北米(米国とカナダ)のcommunity collegesの連合組織で、その目的はほぼPODと同じである。即ち、メンバーに高等教育上のサービスを提供することである。

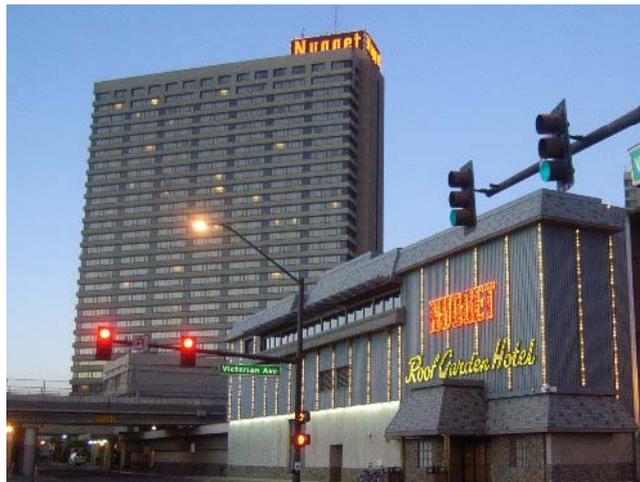
14

開催都市： Reno(米国・Nevada州)



15

開催場所：The Nugget Resort



16

The Nugget Resortの内部



17

POD Conference2008のテーマ



この大会で、世代と文化をまたがり、様々な
学問領域の教育者たちが、それぞれの**教育
実践例**を通じて**(模様を織りなすように)**交流
を行うこと。

18

日本からの参加者(27名)

- **北海道地区**: 北海道大学2名
- **東北地区**: 弘前大学1名
- **関東地区**: 日本教育大学院大学1名
- **東海地区**: 名古屋大学4名、中京大学2名、南山大学2名、名城大学3名、三重大学1名、計12名
- **四国地区**: 愛媛大学1名、高知大学2名、徳島大学2名、四国大学1名、松山大学1名、松山短期大学1名、愛媛県立医療技術大学1名、高知女子大学1名、高知工業高等専門学校1名、計11名

19

四国(SPOD)からの参加者



20

四国(SPOD)からの参加者(内訳)

- 愛媛大学: 佐藤浩章
- 高知大学: 塩崎俊彦、立川明
- 徳島大学: 川野卓二、宮田政徳
- 高知女子大学: 佐藤厚
- 四国大学: 谷口薫
- 松山大学: 上杉志朗
- 愛媛県立医療技術大学: 野本百合子
- 松山短期大学: 中村雅人
- 高知工業高等専門学校: 藤原憲一郎

21

大会日程



2008年10月22日(水) 8:30~17:00	Pre-conference Workshops
2008年10月23日(木) 9:00~17:00	Concurrent Sessions Roundtable Sessions Plenary Session
2008年10月24日(金) 8:15~17:00	Concurrent Sessions Plenary Session
2008年10月25日(土) 9:30~16:45	Poster Sessions Concurrent Sessions Roundtable Sessions

22

大会1日目(水曜日)



Time	Wednesday, October 22
7:30 - 18:00	Conference Registration
8:30 - 12:00	Pre-Conference Workshops (W1-W13)=5+8
13:00 - 16:30	Pre-Conference Workshops (W1-W5 continued)
13:00 - 16:30	Pre-Conference Workshops (W14-W23)=9
17:00 - 17:30	Introduction to POD for the first timers
17:30 - 18:30	POD Welcome Reception
18:30 - 17:00	NCSPOD First Time Conference Attendee Orientation
17:00 - 21:00	NCSPOD Welcome Reception

23

大会2日目(木曜日)



Time	Thursday, October 23
7:45 - 8:45	POD Topical Interest Groups
9:00 - 10:15	Concurrent Session (1) =18 Roundtable Session(1) =6
10:30 - 11:45	Concurrent Session (2) =15 Roundtable Session(2) =7
12:15 - 14:00	NCSPOD/POD Luncheon Plenary Session (1)
14:15 - 15:30	Concurrent Session (3) =17 Roundtable Session(3) =7
15:45 - 17:00	Concurrent Session (4) =17 Roundtable Session(4) =7
17:30 - 18:30	POD Diversity Reception
18:30 - 20:00	POD Dinner and Presidential Address

24

大会3日目(金曜日)



Time	Friday, October 24
8:15 - 9:30	Concurrent Session (5) =17
9:45 - 10:45	Plenary Session (2)
11:00 - 12:15	Concurrent Session (6) =18
12:30 - 14:00	POD Award Luncheon
14:15 - 15:30	Concurrent Session (7) =18
15:45 - 17:00	Concurrent Session (8) =17
18:00 - 20:00	Expedition #5: Virginia City Dinner Theatre

25

大会4日目(土曜日)



Time	Saturday, October 25
9:30 - 12:00	Poster Session (1) =18 Poster Session (2) =18
14:00 - 15:15	Concurrent Session (9) =9 Roundtable Session (5) =7
15:30 - 16:45	Concurrent Session (10) =9
17:30 - 18:30	POD Reception
18:30 - 20:00	POD Banquet (Dinner + Dance)

26

発表の内訳と数

- ① Plenary Sessions (基調講演) ⇒ 2
 - (1) Beyond Critical Thinking to Becoming an Effective Change Agent: Trends Toward Sustainability Education and Action: by Debra Rowe
 - (2) Learning as a Community Endeavor: by Dennis C. Jacobs
- ② Concurrent Sessions (研究発表) ⇒ 138
- ③ Roundtable Sessions (討論) ⇒ 34
- ④ Workshop (ワークショップ) ⇒ 22
- ⑤ Poster Sessions (ポスター発表) ⇒ 36

27

発表の内容

- ① 教員個人の専門職能力開発 (**Professional Development**): 教員のキャリア形成に関するもの。
- ② 教授・学習の開発 (**Instructional Development**): 大学での教授法に関するもの。
- ③ 教育組織開発 (**Organizational Development**): FDセンターをはじめ教育組織に関するもの。

28

発表の形式

- ① **Concurrent Session**: 1名～数名の発表企画者が或話題について口頭発表し、それについて参加者同士で意見を述べ合う。
- ② **Roundtable Session**: 1名～数名の発表企画者が或話題について問題提起し、参加者間で討論する。①よりインフォーマルで、くだけた雰囲気の中で行われる。

29

発表の最近の傾向

昔: 教育組織開発 (Organizational Development): FDセンターをはじめ教育組織に関するもの。



最近: 教員個人の能力開発 (Professional Development) や教授・学習の開発 (Instructional Development) へ移行。
特にWebを使ったICT関連の発表が目立つ。

30

3. 大会の様子について



31

Registration Deskの様子



32

Plenary Sessionの様子



33

POD Award授賞式の様子



34

Concurrent Sessionの様子



Concurrent Sessionの様子



36

Concurrent Sessionの様子



37

参加したConcurrent Sessionの例①

- タイトル: **Establishing a Teaching and Learning Center: Becoming Part of the Campus Fabric**
- 主催者: **by Tracy Price, Lansing Community College & Todd Zakrajsek, UNC (=University of North Carolina), Chapel Hill**
- 最初の質問: **“What are the biggest challenges you have encountered, or would expect to encounter, in establishing a teaching and learning center?”**
- その後の展開: ① **Tracy and Todd’s Tips: Starting a Center**
② **Tracy and Todd’s Tips: Sustaining a Center**
③ **Tracy and Todd’s Tips: Becoming Part of the College Infrastructure**

38

参加したConcurrent Sessionの例②

- タイトル: **Faculty Development for Core Learning Outcomes**
- 主催者: **by Lynda Milne, Minnesota State Colleges & Universities**
- 最初の議論: **“Has your institution determined core student outcomes and competencies for your graduates?”**
- その後の展開: **Minnesota州の32の大学と短大で実施したlearning outcomeに関するアンケート調査報告**

39

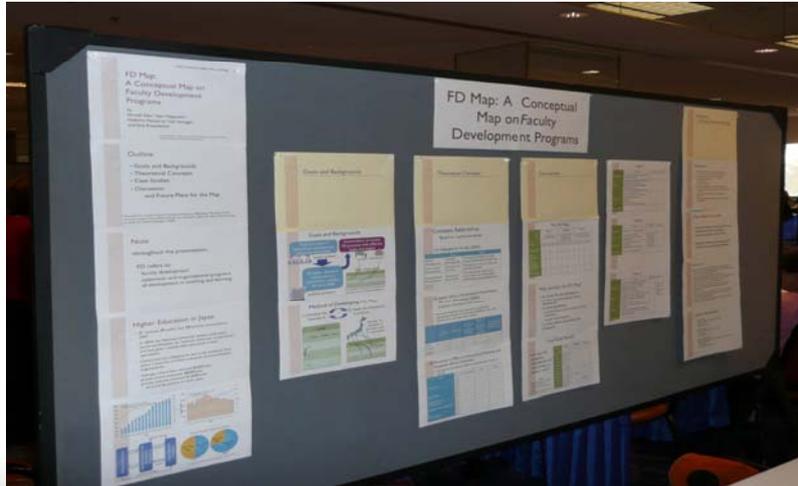
Poster Sessionの様子



[You-Tube](#)

40

Poster Sessionの様子①(佐藤浩章先生グループの発表)



41

Poster Sessionの様子①(佐藤浩章先生のグループ)



42

Poster Sessionの様子①(佐藤浩章先生のグループの発表内容)

- タイトル: **FD Map: A Conceptual Map on Faculty Development Programs**
- 発表者: 愛媛大学の佐藤浩章先生、三重大大学の長澤多代先生、名城大学の中島英博先生の3名
- 内容: 全国の12大学から123のFDプログラムを集め、それをレベルとフェーズ別に分析した。レベルは(1)ミクロレベル(授業改善)、(2)ミドルレベル(カリキュラム改善)、(3)マクロレベル(組織の改善)。フェーズは(1)導入段階、(2)基本習得段階、(3)応用発展段階、(4)創作発展段階、(5)支援指導段階。

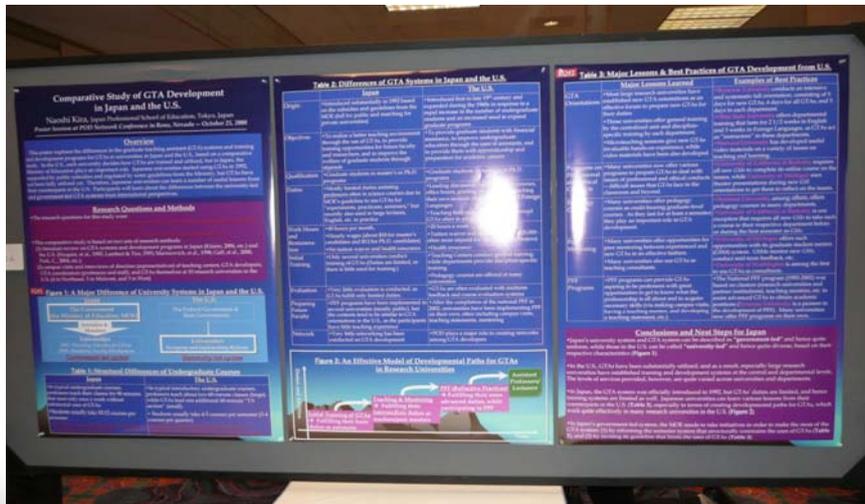
43

Poster Sessionの様子①(佐藤浩章先生グループの発表の声)



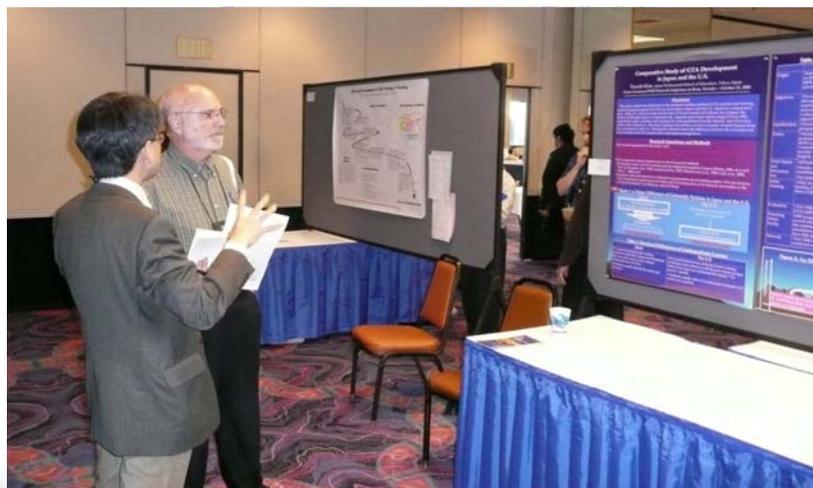
44

Poster Sessionの様子②(吉良先生の発表)



45

Poster Sessionの様子②(吉良直先生の発表)



46

Poster Sessionの説明②(吉良直先生の発表)

- タイトル: Comparative Study of **GTA Development** in Japan and the U.S.
- 発表者: 日本教育大学院大学の吉良直先生
- 内容: TAの研修プログラムとTAの活用について、日米の違いを示したもの。端的に述べると、米国の大学のTAの研修プログラムとTAの活用は各大学に任せられているが、日本では文部科学省がガイドラインを定めて各大学で実施されている。

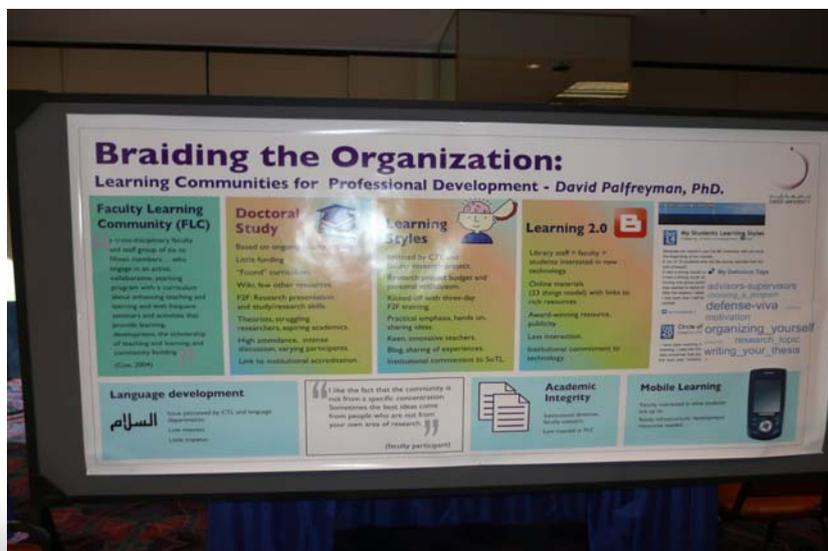
47

Poster Sessionの様子②(吉良直先生発表の声)



48

Poster Sessionの様子③



Poster Session ③ の説明(前のスライドの説明)

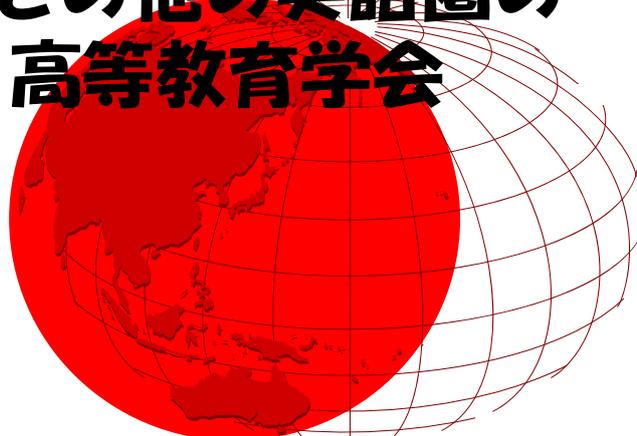
- 題目: Professional Development –Faculty, Career Stages: Braiding the Organization: Learning Communities for Professional Development
- 発表者: David Palfreyman, Zayed University, Dubai, UAE (= United Arab Emirates)
- 内容: 学内のWebサーバー、Community Serverのブログ機能を使って3つの教職員職能開発のためのLearning Communityの活動を紹介。

米国のFaculty Developerの現状

- 米国のファカルティ・ディベロッパーは元教員が多い、しかし彼等はディベロッパーになった後は授業はあまり担当していない。
- ファカルティ・ディベロッパーたちは、米国のほぼ全部に設置されているTeaching & Learning Center (FDセンター)に所属している。しかしそこに所属して人数は2~3人くらい。

51

4. その他の英語圏の 高等教育学会



52

その他の英語圏の高等教育学会

英国SEDA

(Staff and Educational Development Association)

- 全英のファカルティー・デベロッパーの集まり
- 第14回年次大会が今年11月17日～18日に英国バーミンガムで開催され、SPODからも参加予定。

53

その他の英語圏の高等教育学会

豪州HERDSA

(Higher Education Research and Development Society of Australasia)

- オーストラリアとニュージーランドのファカルティー・ディベロッパーの集まり
- 第32回年次大会が今年7月6日～9日に豪州ダーウィンで開催され、徳島大学から3名、弘前大学から土持ゲーリー法一先生が参加。
- 来年は豪州メルボルンで同時期に開催予定。

54

その他の英語圏の高等教育学会

米国ISSOTL

(International Society for the Scholarship of Teaching and Learning)

- 米国を中心とした、全世界のファカルティー・デベロッパーの集まり。
- 第6回年次大会が今年10月22日～25日に米国インディアナ州ブルーミントンのIndiana大学Bloomington校で開催予定。2004年に学会が創設されたところである。
- 過去に1997年豪州シドニーでの第4回大会に、徳島大学から2名、京都大学から2名、山形大学から2名が初参加。
- 来年の第7回大会は10月19日～22日まで英国リバプールで開催予定。

55

その他の英語圏の高等教育学会

カナダSTLHE

(Society for Teaching and Learning in Higher Education)

- カナダのファカルティー・デベロッパーの集まり。
- 第29回年次大会が今年6月17日～20日にカナダのFrederictonのNew Brunswick大学で開催され、弘前大学から土持ゲーリー法一先生が参加。
- 来年の第30回大会は2010年6月23日～26日にカナダのトロントで開催予定。テーマは”Creative Teaching & Learning”。

56

その他の英語圏の高等教育学会

国際ICED

(International Consortium for Educational Development)

- 全世界の高等教育の開発を目的とし、特に国内にFDネットワークがない発展途上国の支援をする。
- メンバーは各国のFDネットワーク組織で、米国POD, 豪州HERDSA, カナダSTLHE, 英国SEDAをはじめ、他16ヶ国。
- 大会は1996年から隔年おきに開催され、第7回大会は2008年米国ユタ州Salt Lake Cityで開かれ、徳島大学から川野先生が個人参加。
- 次回第8回大会は2010年6月28日～30日にスペインのバルセロナで開催予定。

57

5. 大会に参加しての感想



58

POD大会に参加しての感想

- 米国の大学では、ファカルティ・ディベロッパーという専門家による的確な教育的アドバイスが得られるので、**教員には信頼感**があるようである。
- 全米組織のPODや各大学のLearning Communityにおいて、教員は同じ悩みや問題意識を持つ者同士の交流があり、**安心感**や**連帯感**が得られているようである。